「ツーリズムＥＸＰＯジャパン」特集

観光立国へステップ 目標は世界最大の旅行博

（Ｔ１から続く）

――初出展でどんな影響があるでしょう。

田川　インバウンドの増加で買い物が注目され、小売業にとってもビジネスチャンスの拡大につながっている。

――ジャパンナイトをストリートでやる意味は何でしょう。

田川　丸の内エリア（行幸通り、丸の内仲通り、ＪＰタワーホール＆カンファレンス）で行うのだが、確かに難しい場所だ。ただ、行幸通りは皇室の公式行事には馬車道として使用され、各国の大使がこの道を通って陛下に拝謁なされる由緒ある通りだ。ＥＸＰＯのオープニングを飾るには相応しい場所といえる。また、東京五輪・パラリンピックを控え、今後のモデルとなる都市空間を活用した「都市型ＭＩＣＥ」を具現化し、国際都市・東京を国内外に発信する狙いもある。

■　■

――本保さんは国際観光フォーラム・基調シンポジウムのモデレーターを務めますね。どのような内容に。

本保　門川大作京都市長、リシャール・コラスシャネル社長、スー・ジンＵＮＷＴＯアジア太平洋地域部長、パスカル・ラミー世界観光倫理委員会議長にご出席いただき、「旅と文化」をテーマに語っていただく。文化は観光にとっても極めて大事な部分だ。日本文化に対する関心は世界的にも高いが、日本人と外国人では受け止め方にギャップもある。日本文化の国際的視野での位置付けや発信の仕方などを議論したい。

――新たに「ジャパン・ツーリズム・アワード」が設けられました。

山口　「国内・訪日」「海外」「国際」の各領域で観光産業の発展・拡大に寄与するあらゆる事業者、企業、団体の優れた取り組みを表彰する制度だ。広く周知することで国民に観光の力に対する理解を深めてもらう。今回１２８件の応募があり、手ごたえを感じている。

――インターネットが普及し、旅に関する情報も簡単に入手できます。あえて旅行博を開催する意味は。

田川　15万人超が来場した背景にはリアリズムがあるからだろう。生きた情報に触れられる、体験もできる。その意味では展示にしても商談会にしても、いかにリアリズムを出していくかがこれからのポイントになってくるだろう。単なる観光の商談会、展示会では意味がない。見せ方も工夫し、例えば歌舞伎のイベントを行うなど、伝統文化を再認識させる場であってもいい。

――観光に対する国民の理解も深まりつつあると思いますが、きっかけの一つは訪日外客の増加ではないでしょうか。

山口　加速度的に増加しており、45年ぶりにインバウンドとアウトバウンドの人数が逆転した。メディアでも最近は観光の話題が多く取り上げられるようになってきた。欧米と比較してもユニークな伝統技術と現代技術が併存している国は他にない。人と自然の調和、四季折々の良さがあり、リピーター化してもらいたい。

本保　２千万人は遠からず実現するだろう。３千万人は正直しんどいが不可能な数字ではない。インが増えると宿泊施設の絶対数が不足すると言われているが、市場全体ではインのボリュームはまだまだ小さい。そう心配はしていない。それよりも、内なる国際化が進んでいないのが問題だ。外国人に対してまだまだ腰が引けている。

田川　海外旅行に出る日本人が１千万人から１８００万人近くになるのに10年かかった。ところが、インはわずか２年で１８００万人になろうとしている。こう急激に伸びると、ひずみも出てくるだろう。最近では一部の旅行者のマナー問題も取り沙汰されているが、数年経てば解消される。

本保さんが内なる国際化といわれたが、その通りだ。受け入れにあたって解決すべき問題は多々ある。例えば、地震や噴火など災害に見舞われた外国人旅行者の扱いをどうするかなど、新たな問題も浮上している。

インバウンド受け入れと国内観光振興

――話しは変わりますが、旅館の受け入れ態勢はいかがでしょう。インに対する温度差は依然としてあるように感じます。

田川　10室や20室といった小中規模旅館はともかく、１００室以上の大型旅館は外国人を受け入れないとやっていけないだろう。外国人におもねる必要はないが、ある程度の設備は必要で、例えば布団もいいが、ベッドを備え付けるなど和洋折衷でないとなかなか難しい。設備投資も必要になってくる。そのためには地銀や信金など金融機関の理解が必要であり、ＪＡＴＡとしても政策提言などをし、周知に努めている。

本保　金融機関の観光に対するセミナーなども増えてきており、理解は進みつつあるようだ。

山口　旅館経営の最大のネックは家業の延長であるということ。マネジメントの視点が欠かせない。経営計画を数字できちっと示せば金融機関も融資をしやすい。

田川　所有と経営の分離も考えてみるべきだ。

――ＥＸＰＯは国内観光の進めていく必要がある。新たな投資ではなく、身近にある外国人の関心がある資源を見直し、広域観光周遊ルートで行っていく。

観光資源の磨き上げを 山口氏
地域の「国際化」が重要 田川氏
休暇制度の改革が必要 本保氏

田川　地域の国際化が鍵を握っている。海外旅行が当たり前になり日本人も国際化した。そうした人たちが国内旅行をする際、つい外国と比較してしまう。「どうしてカードが使えないのか」「食事をするいい場所がない」など不満も出てくる恐れがある。そうした声に対応しなければ国内旅行はそっぽを向かれてしまう。国際感覚を磨いてほしい。それができれば外客の受け入れも苦労しなくてすむ。

本保　今後、日本人の国内旅行は伸びない、伸びなくて当たり前と思った方がいい。とはいえ、悲観する必要はない。１人当たりのＧＤＰは増え、国内観光に落とすお金も増えると思われる。要は国内観光は楽しいと思わせる工夫をすることだ。１泊２食のままでいいのか、検討することはいっぱいある。もう一つ、需要創出の鍵を握るのは休暇のあり方だ。国民的な議論が必要だが、労働環境の改善の視点からも考えていくべき問題だ。需要喚起に一役買っている。関係者の期待も大きい。訪日外客をどう増やすかは確かに重要ですが、国内観光の主役はやはり日本人です。どう国内旅行をしてもらうか、アドバイスをいただきたい。

山口　日観振のアンケートでは、宿泊旅行の実績において、20代が減少しており、地域では関東ブロックの減少が顕著である。データから専門家がマネジメントし、施策をアピールすることにより、誘導していく。

経済産業省が提唱している「稼ぐ力」というのがあるが、グローバル経済とローカル経済を分けて考えていく必要があるのではないか。地域においては、中堅企業を核に雇用創出、６次産業化など地方創生に向けて取り組んでいる。いまは地方に光が当たっており、インバウンドを取り込んだ上で観光資源の磨き上げを

世界最大級　旅の祭典
ツーリズムEXPOジャパン
動く。感じる。旅になる。

新しい旅のスタイルをご提案!

世界最大級　旅の祭典　ツーリズムEXPOジャパン　動く。感じる。旅になる。

開催日 2015.9.26(SAT)～27(SUN) ※9/24～25は業界関係者のみ
会場 東京ビッグサイト 東展示棟 5ホールJ-18にて皆様をお待ちしております

メインステージでは気軽で快適・種類豊富な「ひとり旅・あるく」、
優雅な時間を過ごす「クルーズの旅」、滅多に訪れない「秘境の旅」のご紹介。
ミニイベントスペースでは地域との共同プログラム、ミニステージも実施。

秘境

360度の絶景!壮観な白銀の世界／ウユニ塩湖

一度は観てみたい、天空の芸術／北欧 オーロラ

クルーズ

クルーズでめぐる７色のカリブ海／オアシス・オブ・ザ・シーズ

ノルウェージャン・ゲッタウェイ

テーマ

気軽に参加・新たな出会いも／ひとり旅

気軽な街歩きから本格的な登山まで／あるく

仲間が広がる、旅が深まる
近畿日本ツーリスト　近ツー　検索
クラブツーリズム
KNT-CTホールディングス株式会社

JTB　感動のそばに、いつも。

地域を元気に、人を笑顔に。
JTB地球いきいきプロジェクト

「JTB地球いきいきプロジェクト」は、
お客様や地域の皆様とJTBグループの社員が一緒になり、
元気な未来を創造していく活動です。
観光地をめぐりながらお掃除をしたり、地域の文化を学びながら植樹をしたり。
環境美化や、人と人との交流を通じて、そこに関わる全ての方々とともに
「地域を元気に、人を笑顔に。」していきたいと考えています。

※このプロジェクトは、1982年から続く「観光地クリーンアップキャンペーン」を、2012年のJTB創立100周年を機に改称したものです。

〈2014年度活動の一例〉北海道感動の瞬間100選「白老・鮭の遡上」観賞と環境保全活動

〈2014年度活動の一例〉稲刈りと渡良瀬遊水地セイタカアワダチソウ除去

この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

2015年度のプログラムも続々登場。ぜひご参加ください。
JTB 地球いきいき　検索